第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会（ホール審査）総評
ショパニスト I 部門

●審査員 A
・後半になって違う部門かと思ったほどよい演奏が出てきて、大変聴き応えがありました。
・曲の冒頭に難ありの演奏者が多かったと思います。途中から目を見張るほど音色や表現が豊かになって驚くことがありました。冒頭の第 1 音、ワンモチーフは非常に重要です。
・作品の難易度が高くなくても、珠玉の小品としての価値を持つに至った演奏を聴かせていただきました。
・例えば、ソナタ作品 35 の第 1 楽章などで、激しい情熱と清らかさとが拮抗しながらも、非常によくコントロールされており感心いたしました。

●審査員 B
技術的に難しい曲もよく弾かれていました。限られた時間の中で持ち味を充分に出せる選曲をされていたかと思います。曲に対する想いや情熱がとても伝わってきましたので、音の響きやバランスや楽譜にある指示をよく見て、さらに磨かれると良いと思います。

●審査員 C
・まずは自分の持ち音、魅力的な音を持つことが大切です。よく自分の音を聞きましょう。1 つひとつの音に訴える力が欲しいです。ユリホールは縦に長いホールですので、音が後ろまで届くようにしましょう。
・また、1 曲を通しての変化や構成（組み立て）が大事になってきます。

●審査員 D
曲に対するこだわり、気迫が感じられました。音の質や音色の変化を磨いて、さらに魅力的なショパンを追求していただければと思います。

●審査員 E
ショパンの作品を演奏する際、その作品がどの時代に書かれたかをまず知りましょう。それぞれの時代によってショパンの様式と特徴が違います。大きく 3 つの時代に分けられます。前期は、ワルシャワ時代の作品、ブリランテ様式と呼ばれる華やかで軽やかな音色を必要とする作品が多くあります。中期はワルシャワを離れたあとの作品で、ショパンらしい独自のスタイルが完成されます。そして晩年の円熟期では、これまでの創作活動の総まとめ期というだけではなく、未来の印象派の音楽を予見するようなハーモニーなどが現れます。

　それらを知った上で、その作品を演奏するには本当に何が必要か、楽譜に書かれた真実、ショパンの意図、音楽の意味は何かを考え、どのように演奏すれば実現できるかを根気よく探ってみましょう。

　過去のコンクールのコメントでさまざまなポイントを言及してきました。今回も同じようなことを感じました。ペダルはまず楽譜をよく見て、ショパンのオリジナルの指示を理解しましょう。身体は力を入れず、肩から肘、手首もよく緩めておき、末端の指先はしっかり鍵盤にフィットするようにしましょう。いつも右手と左手のバランスを良く聞いて、メロディは良く響く深い音で、伴奏は控えめに柔らかく弾きましょう。アーティキュレーション（スラー、スタッカート、テヌート、長めのアクセント記号など）や、表情記号（ソステヌート、ソットヴォーツェなど）を良く見て、どのような表情とテクニックがふさわしいか考えましょう。テンポに関しては、特に指示がないのに急に遅くしたり急に速く弾いたりなどしないようにしましょう。強弱記号はただ強い、弱いだけではなく、その場所にふさわしいイメージを持って作りましょう。光と陰の陰影や二面性のコントラストなども工夫して、多様な表現ができるようにしましょう。

　最後に指導者の皆様へ。この困難な時代に生徒さんが音楽に向き合うことはとても尊いことで、そのお手伝いをしてくださっていることに感謝します。教育とは、それぞれの生徒さんたちの持っているスキルと足りていないところを見極め、彼らに何が必要かを考えていくことだと思います。生徒さんを取り巻く環境も大きく変わってきているので、時代にあった指導を心がける必要があります。そして内面（メンタル）が一人ずつ違う生徒さんたちの才能を開花させるには、柔軟な対応と幅広い視点、そして教師自身の日々のレベルアップが必須となるかと思います。

●審査員Ｆ
今回のコンクールで聴く機会のあったピアニストたちへの私からのコメントや提案は、正直なところ以前私がこのコンクールで述べたコメントの内容と重なることが沢山あります。

真の芸術家は（敢えてピアニストではなく芸術家と呼びます)、ピアノを弾くのではなく芸術的想像力を駆使し指でストーリーを語ります。音は言葉であり、フレーズは文章であり、曲は全体の物語です。このように音楽を理解し伝えてこそ、聴く人の魂に届き、音楽のあらゆる感情や表現を伝えることが出来るのです。

以前のコンクールでのコメントの内容とも重なりますが、ペダルではなく指を駆使した「レガート・カンタービレ」、和声構造の認識、アーティキュレーション、正確なペダル、ショパンが重視した演奏の自然さ、聴衆の喝采を浴びることだけを目的とする人工的な「演出」

のない演奏、メトロノームの過度なプレッシャーに左右されない音楽の時間感覚と柔軟な語り（メトロノームの正確さは、ときに芸術的想像力を乱すことがあります）はショパンを弾く上で常に覚えておきたいことです。

コンクールに参加する目的は賞ではありません。コンクールは、意識的にレパートリーを増やすことに役立ち、具体的で期限付きの課題を与えてくれ、向上心や集中力へも影響をもたらします。コンクールは音楽家の成長にとって重要で前向きな要素となるのです。

最後にコンクールに参加された皆さん、そしてその先生方、親御さん、お子さんや生徒さんが芸術的な達成から多くの喜びを得られることを心から祈っています。